

デュー・リベラについて

モデルをして居る女より

K子

執筆者の顔触れは、岡田秀雄、中村茂雄、小松益喜、木村郁太郎、山崎坤象、小野佐世男、須山計一が孰れも西洋画科昭和五年卒業。佐藤敬、淵上満夫、中村秀夫が同科同六年卒業。木下幹一が同科同七年卒業。櫛原健三、春日清彦、町田成朗、寺田精太郎が同科同八年卒業。万田稔が同科同九年修了。中島正雄が金工科同五年卒業。高木勝四郎が鑄造科同年卒業、赤塚時雄が図画師範科同年修了。森新一、西村二郎、山村吉衛、関三郎、長崎卓二、村尾貞、保浦静二、上村研三、小林良造は卒業生名簿に名が見えず、中退者か、あるいは筆名と考えられる。岡本唐貴は大正十二年彫刻選科中退、永田一脩は西洋画科昭和二年卒業生で、プロレタリア美術運動の指導者格。村田良策は本校講師で昭和四、五年当時は英語、美学、色彩学授業担当。ここに明らかなように、執筆者は西洋画科生徒、就中、昭和五年卒業生が多かった。

『美術研究』を読むと、本誌が次第に左翼的傾向を強めていったことが分かる。既出『日本プロレタリア美術史』には本誌が学校当局によって発行停止処分を受けたので、これを校外に持ち出し、各学校、研究所有志の統一機関誌として『青年美術』が昭和五年十月に創刊されたと記されている。また、この『美術研究』や近代芸術研究部と太平洋画学校の太平洋近代芸術研究会、『線』の発行との関連については既に述べた(386頁参照)とおりである。

なお、同誌の発行停止は左の記事に記されている事件と関係があったことが推測される。

東京美術學校に『赤い』結社發覺

藝術による端的な運動に當局の眼特に光る

警視廳官房特高課では過般來祕かに活動を開始し、上野美術學校西洋畫科中村某同塑造科森某外數名の生徒を引致取調べてゐたが十七日一件書類丈送局して身柄は釋放し同時に一切を學校當局に通告して自治的處罰を促した、右は同校の左傾學生がナツプ(全國無産藝術聯盟)の美校出身者と連絡を執り『新藝術研究会』及び『近代藝術研究会』なる二つの團體を組織して校内の赤化を企てゝゐる事が發覺し檢舉されたものである

同校の左傾學生は豫て『五月會』なる祕密結社を作つてナツプや學聯一味と氣脈を通じて繪畫に依る赤化宣傳に努めてゐたが昨夏解散を命ぜられたのを再組織を企てたものであるが最近左翼學生の一派は當局の眼が可成隅々にまでとゞいて充分な運動が出来ない處から最も端的にして効果のある藝術に依る尖銳的な赤化運動を開始し相當の實績を擧げてゐるので當局でも細心の注意を拂ひ綿密な内偵を行つて慎重監視に努めてゐる

(昭和四年九月十八日『読売新聞』)

⑨ 白浜徹追悼講演會

本件については『東京美術學校校友會月報』第二十八卷第二号に次のように記されている。

○白濱教授追悼講演會 錦巷會主催のもとに、〔昭和四年〕五月五日午後二時より本校講堂に於て開催せり。

一 開會の辭

平田 松堂氏

一、明治四十四年 三月

色彩の練習 甲種

一 白濱先生の功績

正木 直彦氏

同 乙種

一 圖畫教育に於ける型

木村 莊八氏

一、大正 元年 十月

高等小學新定畫帳教師用

一 圖畫教育に於ける創作日本畫

霜田 靜志氏

一、大正 元年十一月

改訂高等女學校圖畫帳編纂趣意書

一 閉會の辭

今井伴次郎氏

一、大正 二年 四月

普通教育模様集

因に同日會場内に故教授の作品並に著書を陳列展觀したり。

目錄

一、農家の圖(卒業製作) 東京美術學校藏

一、大正 三年 七月

圖畫理論教科書

一、鯛と鰻(平常製作) 同

一、大正 三年 四月

小學校圖畫教授法

一、竹に雀(近作) 白濱家藏

一、大正 四年十一月

新定圖畫帳中學校用一——六

著書

一、明治三十七年 三月 新撰女子用器畫

一、大正 四年十二月

新定圖畫帳中學校用編纂趣意書

一、明治四十一年十一月 改訂師範學校圖畫帖一——五

一、大正 五年 二月

新定圖畫帳實科高女用甲種一、二

一、明治四十一年十一月 改訂高等女學校圖畫帖一——七

一、大正 五年 八月

新定圖畫帳實科高等女學校用教授參考書

一、明治四十一年十一月 新式中學校圖畫帖一——六

一、大正 五年 十一月

圖畫教授資料第一編

一、明治四十一年十一月 改訂中學校圖畫帖一——六

一、大正 六年 一月

普通教育新定圖案 前集 後集

一、明治四十一年 六月 普通教育圖案集

一、大正 十一年 三月

小學幾何畫法參考目

一、明治四十二年 一月 新式師範學校圖畫帖教授參考書

一、大正 十五年十一月

現代の美術教育

一、明治四十二年 一月 新式高等女學校圖畫帖教授參考書

一、大正 十五年十一月

新定圖畫帳中學校用教授參考書

一、明治四十三年 四月 新式幾何畫練習帖一、二、三

一、大正 十五年十一月

新定圖畫帳實科高等女學校用教授參考書

一、明治四十二年 一月 改訂中學圖畫帖教授參考書

一、大正 十五年十一月

新定圖畫帳實科高等女學校用教授參考書

一、明治四十三年 三月 尋常小學新定畫帳

一、大正 十五年十一月

新定圖畫帳實科高等女學校用教授參考書

一、明治四十四年 一月 高等小學新定畫帳

一、大正 十五年十一月

新定圖畫帳實科高等女學校用教授參考書

一、明治四十四年 一月 圖畫教授の理論及實際

一、大正 十五年十一月

新定圖畫帳實科高等女學校用教授參考書

なお、追悼講演会と同日、錦巷会美術教育研究所の発会式があったことも同誌に記されているので、併せて転載する。

○錦巷会美術教育研究所發會式 五月五日神田區一ツ橋帝國教育會館に於て開催、顧問倉橋惣三、權田保之助、岡山秀吉、阿部七

五三吉、鈴川信一、田邊孝次、森田龜之助、恩地孝四郎諸氏出席せられ、晚餐後に於て會長平田松堂氏の挨拶、岡山秀吉氏の祝詞あり、晚餐後別室にて主事霜田静志氏の挨拶あり、本會成立の趣旨を説明せられ、今後の事業に就て顧問諸氏に依頼するところありたり。

⑩ 図画手工夏季講習會

『東京美術学校校友会月報』第二十八卷第四号に次のように記載されている。

○東京美術学校圖畫手工夏季講習會 八月一日より七日まで、本校〔図画〕師範科教室に於て開催、第一部圖畫の中、日本畫科五人、西洋畫科四九人、第二部手工一五人出席せり、因に課目及び講師左の如し。

第一部 圖畫（八月一日ヨリ七日間午前八時ヨリ正午迄）

（甲）日本畫實習（臨畫及寫生）

講師 東京美術學校教授 平田 榮二
同 助教授 松垣 靄雄

（乙）西洋畫實習（木炭畫、水彩畫、油繪）

講師 東京美術學校教授 田邊 至
同 助教授 三浦 直政
同 助教授 長野 新一

第二部 手工（八月一日ヨリ七日間午前八時ヨリ正午迄）

彫塑實習 講師 東京美術學校教授 水谷 鐵也

木工及版畫實習

同 助教授 松田 義之

漆工製作

〔同〕 東京府立高等學校講師 松岡 正雄

講演（八月一日ヨリ六日間午後一時ヨリ三時迄）

用器畫教授ノ理論 講師 東京美術學校教授 鈴川 信一
及實際 講師 東京美術學校講師 尾川藤十郎

趣味ノ教育

講師 東京美術學校講師 尾川藤十郎

歐米ノ美術教育

講師 東京明星學園講師 霜田 静志

⑪ 白井雨山銅像除幕式

白井雨山は大正九年に彫刻科教授の職を辞し、大阪市、次いで兵庫県に居を移し、文人画に没頭していたが、昭和三年三月二十三日に武庫郡御影町の寓居で死去した。同年七月二十六日、東京市本郷区団子坂の世尊院で北村西望、建昌大夢、吉田久継、柴田正重、畑正吉、沼田一雅、杉本伝、横江嘉純、後藤良、毛利教武、清水宇一ら知己門生が追悼會を催し、その折りに銅像建設と遺作展覽會開催のことを決定し、準備に着手した。

銅像は建昌大夢の手に成り、雨山の親友で彼より一年早く他界した大村西崖の銅像（昭和三年除幕）と並んで建てられ、昭和四年七月七日に除幕式と遺作展覽會が開かれた。その模様は『東京美術学校校友会月報』第二十八卷第四号の「芸苑彙報」欄に記されている。